

6.4大衆団交に全日大生はすべて結集せよ

全理事の総退陣・経理内容 の全面公開・学園の民主化！ 一部右翼体育会の暴力追放！ 古田は全学生の前に出てこい！

全学共闘会議

全日大一〇万の学友諸君！

われわれが現下に関わり抜いているこの日大闘争は、日を迫る毎に高まり、ますます理事会当局との対立を鮮明にさせて、いよいよ巨大なうねりをみせている。全理事の総退陣！ 経理内容の全面公開！ 学園の民主化！ このスローガンは日本大学の文字通り一〇万学生を結集してやまない勢いをもって突き進んでいるのだ。

全日大の学友諸君、このスローガンをいまこそわれわれすべての怒りの声で満ち尽くせ！

日本大学の良心的学友の敗北と奴隷の歴史に、われわれの力と情熱をもって、必ずや終止符をうつ！

われわれの手によって、いまから新たに新しい日大の輝ける闘いの一ページを開こうではないか！

われわれは、これまでの日大のなかにおける恐怖政治的な長い重苦しい状況に対する思いつきの反発の闘いをいまやっているのではない。この闘いは日大の暗黒と反動の歴史への限りない怒りをこめた徹底的な反逆の熱にあふれた闘いである。とともに、幾多の先輩たちの驚くべきほどの犠牲の上に進行してきたこの暗黒と反動の歴史を必ず終結させるのだという決意と、明白な目的をもって、現下に関わり抜いているのではないのか！

だとするならば、われわれは、この日大の全く画期的な、空前の大衆的高揚の中で素朴に酔いしれる自己満足でがまんすることはできないのだ。

五月二十七日には理工中庭に一万と五千の学友が結集し、三十一日には実に三万名にもなんなんとする日大生が暴力で文理学部キャンパスを奪還し、大衆団交を強烈につまつけた。わが日大生のこの力は、日本の幾多の学園闘争にはかつてみられなかった程の、限りない、汲み尽しきれない、気の遠くなるようなエネルギーを秘めている。

だからこそ、まさにだからこそ、この三十一日三万学友の力をもって、そしてすべての一〇万学友の参加のもとに、確実に勝利しようではないか。

では、どのようにしてわれわれは確実に勝利の条件をかちとっていくのか。

それは、いうまでもなく、全日大生が六月四日、本部前大衆団交にすべてもれなく結集することだ。

三十四億田使途不明金問題として、その氷山の一角をあらわにした日本大学運営機構の言語を絶する腐敗と反動の内実は、日本大学のなかに引く抜くことが非常に困難なほどに深く根をおろしている。

まさにこの使途不明金の徹底的な追求の闘いは、直接的に、日大の反動的な教育政策の根本的改革をめざす闘いなのだ。

五八年の日大改善案を愚弄なテコとするそれ以後の徹頭徹尾腐敗しまった教育・学問内容、自民党・右翼・体育会をつかつての恐怖政治的な学生支配、この暗黒と反動の歴史のあまりにも当然の産物が、かの三十四億田問題ではなかったか。

日大理事会の教育政策の過去と現在の総体に立ち向かい、完膚なきまでに打ち砕く日大生の闘いは、新しい未来をはっきりと準備するものなのだ。

そうだ、日本大学の主人公はほかの誰でもなく、われわれ日本大学の学生なのだということをますます鮮明にさせねばならない。

六月四日本部前大衆団交にすべての日大生がすべて結集することが最も重要なことなのだ。六月四日の大結集をもって大学の主人公は学生であるということを古田に思い知らせようではないか。

そのことだけが、われわれの勝利を保障する最初の、そして最後の条件なのだ。

さらに、全日大の学友諸君！ いま日大ではどうがこぼれるようにまかれ、マイクでのアジテーションが熱を帯びて訴え、ジグザグのデモが地面をゆるがせている。大学の雇用暴力学生はひっそりと沈黙し、さざやかだけれども、われわれに自由とはどんなものかを実感させるに充分なことがおこっている。

だが、暴力と暗黒の支配は、なくなったのではなく、次のより狂気じみた反動の準備のために、沈黙しているだけなのだ。

自由をとりもどせ！ 真理の大学をわれわれの手に回復した！ と錯覚するのははやすぎる。自然界の動きよりも、もっともっと確実に精確に自由と真理をとりもどせ！

まさにそのためにも、六月四日本部前大衆団交に総結集せよ！ 六月四日大衆団交へ！

全日大生は全学共闘会議のもとにすべて結集し、

大衆団交に勝利し抜こう！

6月4日 12時 各学部決起集会→2時半 本部

前総結集→大衆団交